

# ナチス・ドイツの 優生思想

中西喜久司

## 断種と「安楽死」政策を検証する

40万人の障害者が不妊手術を強制された「断種法」、重度障害者30万人以上が犠牲となった「安楽死」政策＝「T4作戦」。その根底に横たわるナチス・ドイツの優生思想を本邦初資料をもとに検証、糾弾する。



四六判上製 280ページ  
定価：本体2200円＋税  
文理閣刊

### ◆藤井克徳 (NPO 法人日本障害者協議会代表)

(「改題復刊にあたって」より)

優生思想とは「あるべき社会は強い者のみが生き残り、弱い者や劣る者は消えるべき」という考え方です。中西さんが深く案じていたのは、優生思想の現代社会へのはびこりでした。本書復刊(旧書名『ナチスドイツと聴覚障害者』)の意義は大きく、世直しの一助になることに加え、障害のある人の辛苦の歴史をつなぐバトンの一つとなることを願ってやみません。

【本書を推薦します】  
石野富志三郎 (一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長)  
黒崎信幸 (社会福祉法人全国手話研修センター理事長)  
高田英一 (世界ろう連盟名誉理事)  
竹下義樹 (弁護士)  
藤井克徳 (NPO 法人日本障害者協議会代表)  
松本晶行 (弁護士)

### ◆お申込先

一般財団法人 全日本ろうあ連盟

電話：03 (3268) 8847 FAX：03 (3267) 3445

Website：http://www.jfd.or.jp

購入申込書	ISBN 978-4-89259-853-1 C0022	
	<b>ナチス・ドイツの優生思想</b> 断種と「安楽死」政策を検証する 中西喜久司 著 定価：本体2200円＋税	冊
	おところ (〒 )	<input type="checkbox"/> 公費 <input type="checkbox"/> 私費
お名前		